

保育職場の非正規労働者実態等調査 報告集会開催される

保育職場の非正規労働者実態等調査報告集会は、7月18日、68名（うち公共一般20名／メディア2名）の参加でラパスホールで行われました。

萩原淳東京自治労連執行委員長が「多くの組合員の協力と単組の努力で行われた全国的にも貴重な調査だ。今後、要求の実現と組織の拡大につなげていくことが求められる」と開会挨拶。続いて蛭名孝宏自治労連中央執行委員から「この集会での報告を今後の方針に役立てたい」との連帯の挨拶がありました。

垣内国光明星大学教授が調査報告

本調査を中心に中央大学大学院の小尾晴美さんに代わり、垣内国光明星大学教授が中間報告書の報告を行いました。垣内教授は、非正規保育労働者の調査は全国初であり、画期的なものであること、労働組合が行った調査に誇りを持って報告を聞いてもらいたい、と語りました。

調査報告の主な骨子は以下の通りです。

- ◎ 全国的に見れば、公立保育園は非正規労働者でもっている現状。
- ◎ 自治体によっては保育職場の非正規職員の種類が8種類にのぼり、その法的根拠は、自治体自体が混乱しているのではないかと思われるほどである。
- ◎ 非正規労働者アンケート調査は、3,632名から回答があり、7割が保育に携わる仕事。
- ◎ 労働組合への加盟は10.6%。加盟の意思の有無については、「組合に加入したい」2.6%「加入は検討してもよい」13.3%。勤続年数10年以上の労働者が、組合に加盟している。
- ◎ 雇用継続については、継続して働きたいという意思が高い。
- ◎ 賃金について、労働組合の調査ということで大勢の労働者が回答してくれた。生活に対し十分でないという実態。収入の使い道は、4人に1人が生活の主要な部分に使っており、ダブルワーク、トリプルワーク20.4%もいて厳しい生活状況。
- ◎ ストレスについては、子どもに対しては殆んどないが、労働、疲労ストレスが大きい。
- ◎ 仕事内容は、地方では正規と全く同じ内容であるが、東京でも近いものが出てきている。
- ◎ 責任は、正規と同じように感じている。保護者からの信頼は、長く勤めることで感じており、正規労働者がその責任感をつかむことが必要。
- ◎ 専門性がある仕事、と感じている一方で、研修がない57.5%。研修内容は、仕事に対する責任などはあるが、保育内容についてはない。非正規労働者が希望している研修内容は、保育内容。
- ◎ 情報の共有は保育の質に関わる事であり、園児のことを知り、子どもに適切な言葉かけをしたいという願いを持っている。正規労働者との話し合いの機会を求めている。
- ◎ 自由記述は、回答のあった441件から24件を選び報告。数字での分析が、実際の言葉に表れた内容。

垣内教授は報告を、「本当の意味での非正規ユニオンを結成すること。労働組合と研究者が協力して政策作りを行っていけることを嬉しく思う」と結びました。

フロア発言

フロア発言は、公共一般から、組合の取り組みで、非正規労働者の働く環境はずっと改善されて

きており、組合がある意味だと思う。品川区での交流会で、派遣会社に所属したことがある非正規職員が参加。保育の制度、品川の状況が改善しなければ子どもの為によくはない、と組合に加盟してくれた、と体験を報告。

大田区からは、毎月保育ユニオンに参加して情報を得、地元で生かしている。非常勤保育士歓迎会や交流会を行い、正規職員の組合の協力で参加者が増えてきている中で、組合があることを知らせている。

多摩市からは、正規職員同様担任を持ってきた。賃金を下げないで、という要求が主であったが、朝夕の職員に情報の共有がされていない実態があり、情報の共有を求めた。今年5月から、月に一回、16:00からの1時間非正規職員が残業して情報共有の場が持たれるようになった。正規職員が多忙を極めている現状が根本の問題だが、情報の共有の必要性を園長が感じ、具体化してくれたことは成果。

文京区からは、保育内容学習会について、主催者だけの参加でも開催しよう、学ぶ喜びを第一に、と継続してきた経験が報告されました。

「非正規職員の諸権利の向上をめざす労働政策（たたき台）」提起

高橋光幸副部長から、「公立保育園における非正規職員の諸権利の向上をめざす労働政策（たたき台）」について提案があり、なぜたたき台かという点、非正規、正規労働者に叩いてもらい、それぞれ地元で具体化、地域の状況に合わせた取り組みを作っていってほしい為であること、組合が、非正規労働者の日々の悩みに応える存在になること、ともに保育の喜びを感じられる職員集団をつくる援助をすることが語られました。又、正規、非正規労働者が、互いに他者がどのような状況、気持ちで働いているか、思い至らずにいる。組合で垣根を越えていこう、と呼びかけました。

閉会の挨拶は、公共一般岩下和江さん。この調査をどう生かすかは、対話を通じて働きやすい職場にしていくこと、と締めくくりました。

この報告集会は、調査の報告集会であり、運動のスタート集会です。正規、非正規労働者がともに保育の喜び、悩みを語り合い、働く者と子ども、保護者のために手を取り合って運動を進めていく、そのスタートとなることを願っています。各地域での、その地域に合った取り組みを持ち寄り、冬には報告集会を行えたらと考えています。

【傘下の 組織や保育関係者に配信・配布してください。】